

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770500290		
法人名	有限会社 ルネス		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	観音寺市吉岡町960-10		
自己評価作成日	平成22年7月13日	評価結果市町受理日	平成21年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770500290&amp;SGD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770500290&amp;SGD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成22年8月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自己決定できる環境づくりに力を入れている。職員側で決めたことを押し付けず、些細なことでも自分で決められるように場面作りをしている。自己決定が困難な方には態度や表情から読み取り、確認をとるようにしている。  
また、利用者様が生活の中で役割を実行できる場面づくりにも力を入れている。利用者様同士の関わりの中で共同生活の場面を作り出しており、職員はその場面が継続できるよう対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

田園住宅の一角にある明るい施設である。全職員で作り上げたしっかりとした独自の理念を持ち、それらがチーム全体で共有され利用者の日々の支援に活かされている。目配り、気配り、やさしい声かけ等により利用者の尊厳と自由が守られている。何よりも利用者が心穏やかで笑顔が輝いている。利用者が好みや力に応じて出来ることを楽しみながら意欲的に動き、会話している家庭の延長のようなホームである。事業所としての介護プランもしっかりと出来、関係機関との連携も密にしている。特に地域とのふれあいを最も大切にしており、利用者を多様な方法で楽しませながら支援が行われている。今後もさらにサービスの向上、質の高さを期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		グループホームたんぼぼ(すみれ)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成19年に理念の見直しを実施していたが地域密着型サービスの理念とまでしていない。理念は月1回の全体ミーティング時、職員全員意識向上チェックシートの読み合わせをし、共有している。	独自の理念に基づいて利用者が安心安全に暮らせるよう全員で理念を共有し、日々の支援に活かしている。利用者は一人ひとりが出来ることを楽しみながら、笑顔でよく動き、にぎやかな会話に満ちた自分らしく健やかな生活をしている。 職員が利用者に寄り添い、家庭的環境作りが出来ているホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域活動をしているボランティアが、訪問に来てくれる。また、地域の文化祭やお祭りに参加をしたり事業所主催の花火大会では近所に方を招いて交流している。	事業所が地域とのふれあいを日常的に行い、また、地域の行事に参加するなどふれあいを通して昔を懐かしむ思いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトに登録し、認知症の理解の為に活動している。市主催の介護予防サポーター養成講座の中で、認知症の理解について話し、地域に向けて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度4回実施。内部評価、外部評価の結果を踏まえての研修会時の資料の意見をももらうなどしている。また外部評価家族アンケートの結果についても話し合い、一層満足頂けるよう努めている。	会議参加者から多くの意見や要望をもらい、メンバーの幅広い話し合いにより、質の向上を目指している。また、事業所としてもすばやく全員で対応し、利用者のケアに反映している。	参加者からの意見、要望は運営に繁栄されているが、運営推進委員、特に市職員と連携しながら日程調整を行う等、今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターが開催する連絡会に出席、情報収集や情報交換を行っている。	常に何かあれば市と連携を取り、情報の収集をし、サービス評価の運用、活用等あらゆる点で活かしている。 研修にも参加し努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような場合、どういったことが身体拘束になるのかを事例検討し、職員の知識の向上と意識を深めている。またスピーチロックを行わないよう日頃から折に触れ伝えている。日中、施設は解錠しており自由に出入りが出来るようになっている。	利用者の一人ひとりの行動を把握し、見守り、付き添い、声かけなどにより自由な暮らしを支援している。 身体拘束については、研修や職員による話し合いを通して十分な気配りを行っている。また、どのように拘束せずに対応できるか常に勉強している。	

グループホームたんぽぽ(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修で虐待防止について研修を行っている。普段は朝礼時ニュースの報道などをふまえ、理解を深めている。また、一人ひとりが精神的なストレスをため込まないよう支援している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修で行っており、制度の理解をしてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また、はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明をしている。料金面についても確認を取りながら進めている。解約の場合、家族に十分な説明と今後の行き先について理解と納得をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の苦情等について、ユニットで話した事をリーダー会で取り上げ、全体にも周知し、運営に反映させている。事業所に意見ポスト設置。苦情申し立て先がある事を契約時に伝えている。	玄関に意見箱の設置をして、利用者や家庭から直接意見を言ってもらえるような関係作りをしている。 意見については、会合で話し合ったり、面接時にはなるべく多くの話し合いをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はリーダーが聴き、リーダー会で取り上げ話し合いをしている。また、リーダーは日頃からコミュニケーションが図れるよう努めている。	毎月の会議により意見や提案はきちんと申し送られている。その都度出た提案については、代表者に聞いてもらい反映している。意見も自由に出すことが出来、それらが苦情処理、行事企画にも役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頻回に現場に顔を出し、業務状況を把握している。また、日頃の努力や具体的な実績で職員処遇への反映をしたり、明るく風通しの良い職場づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講演後はその内容を全体ミーティングの場で発表してもらっている。また、研修を受けた職員が講師役となり勉強会を行い、事業所で出来ることを実践している。報告書は全員が閲覧できるようにしている。		

グループホームたんぽぽ(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな研修に参加して交流を深めている。情報交換は電話や訪問時行っている。県グループホーム協議会に所属し、研修会等に職員が参加できるように配慮している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の主訴、困りごと、要望などの傾聴をし受容、理解するよう努め対応するようにしている。また、施設見学をし雰囲気を感じ取ってもらったり何度か来所してもらうことで、少しでも不安の解消に結びつくように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴し求めている事を理解し事業所として、どのような対応が出来るか真摯に話をするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の状況、思いを確認し専門医への受診アドバイスや介護サービスのみでなく医療を含め、他にも利用出来るサービスの説明や対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段からそういった場面が多く持てるよう声掛けに工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝える事で、本人を支える為の協力関係を築いている。また、家族、利用者の思いや状況から外出・外泊など、一緒に過ごせる時間を持てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた美容院や温泉などに行けるように家族に声掛けしたり、利用者の友人が来所時一緒に話をしたりしている。	近所との交わりを大切にし、利用者の気持ちを理解しながら昔を思い出すきっかけになるよう家族とも相談して、声かけや外出支援を行っている。家族も協力的である。	

グループホームたんぽぽ(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	お茶や食事の時間に一緒に多くの会話が 持てるようにしたり、役割や活動を通して、 利用者同士の関係が円滑に行くよう努めて いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後は面会に行ったり、利用施設の相 談員を通して情報のやりとりをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の関わりの中で一人ひとりの思いや 希望を言葉や表情から把握するよう努めて いる。困難な方には、家族・関係者から情報 を得、本人の視点に立ち考えるようにして いる。	日々の行動や一人ひとりの表情、会話など により誰に会いたい、誰と話したいかの思 いや希望を把握できるよう常に努力してい る。また、意志疎通が困難な場合は、家族か らの情報を得るようにしている。これらにつ いてはチーム全体が取り組み、努力を重ねて いる。趣味を持った方が多く、楽しみながら自由 に自分らしく生活している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	家族・関係者と馴染みの関係を深め、プ ライバシーに配慮しながら、必要な情報の把 握に努め、本人の全体像を知る取り組みを している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、状態把握に努め 持てる力を十分に発揮できるように職員間 で話し合う機会をもっている。半年に一度ず つセンター方式のD-1、D-2を活用してい る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人本位の考え方、職員の気づきやアイ デア、本人・家族の意向をふまえて個々の計 画作成をし実践したら必ずモニタリングを行 い現状に即した介護計画になるようにして いる。	職員全員で意見交換やモニタリング、カン ファレンスを行い、本人を中心としながら家族 の意向も取り入れた介護計画を作成してい る。日々の状況に合わせ、その人らしく暮らし 続けるためのモニタリングであり、カンファレ ンスであることを常に理解し、実践している。独 自の理念と共に支援に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表で個々の状態を記入し、個 人記録にはサービス内容のチェックや状態 の変化とその気づきを記入し、情報の共有 をしている。これを基に介護計画を見直して いる。		

グループホームたんぽぽ(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や理容訪問などがあり、希望者が利用している。状況に応じ通院介助・外出支援を行っている。その他医療連携体制を活かし、医療処置を受けながら生活の継続をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員が敬老会祝いに訪問してくれる。警察・消防・タクシー会社などの地域資源を活用し、安全・安心に生活できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時あらかじめ家族と受診病院について話をしている。希望するかかりつけ医を継続してもらっている。新たに受診の必要のある場合は、家族と相談して決めている。	入居時に本人、家族と受診病院との体制について話し合いがされている。その他、救急を要する場合には24時間体制で専門医療機関と連携が保たれている。細かい連絡網が行き届いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人職員である看護師が、日常の健康管理の相談・助言を行い、医療機関の受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状によって受け入れの難しい場合があるが、受け入れてもらえる病院はある。医療機関の担当者と連絡を取り状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と密に連絡を取り合い、家族の受診に同行し医師との連携を図ることもある。事業所としてできることを十分説明し、理解を得ている。点滴など家族の協力のもと、出来る限りの生活の継続を支援している。	2年前、具体的なターミナルケアに関する指針が示され、家族会でも勉強会をするなど、家族と医療機関の連携により本人を主体と考えた方針が保たれている。チーム全員がこれらを認識して支援が行われる体制がある。	連絡網等整備されているが、全職員がより確実に実効性をもって対応できるよう、今以上に心がけてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の不安を取り除き、スムーズな対応が行えるよう、年間計画を立て実践している。また、年一回消防による救急蘇生法、AED使用の訓練を受けている。		

グループホームたんぽぽ(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・防水害マニュアルは作成している。特に火災については赤電話の設置によりマニュアルを変更し、昼・夜の火災を想定して訓練をしている。また、近所にも協力の声掛けをしている。	非常用の防災設備の点検も常に行われており、入居者を主体と考えた防災マニュアルを職員全体が意識して防災訓練をしている。また、地域の連携協力も行われている。	人家が隣接している関係上、特に防火に気をつけ、地域合同の防火訓練や地区の消防団の協力が得られるような今後の取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声掛けや口調・態度に気を付けて対応するように努めている。個人情報については、職員が意識し電話での問い合わせ、来客者に本人のプライバシーに関する事など話さないようにしている。	職員は利用者一人ひとりの尊厳と人格尊重についての重要性を認識している。特に個人情報については利用者の権利、利益の保護に取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で利用者の希望を聞き出せるように個々に話をする時間を持っている。また、意思疎通が困難な方に対しては、表情やしぐさなどを注意深く探り決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定を決めず、本人の趣味や好む事をする時間を持てるよう支援している。食事・入浴等拒否がある時には、時間を改め声掛けするよう職員間で話し合い、共有している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床し、自分の好きな服を着用している。化粧をする習慣のある方は、化粧道具を揃えいつでも出来るようにしている。また、時々職員と一緒に買い物に行き好きな服を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には一緒に食事作りや配膳をしてもらっている。自由メニューの時は、利用者の意見を取り入れている。嫌いものがある時は、代替品を提供している。	個々の力に応じて準備、後片付けをしている。食べやすいものを相談しながらメニュー作りをする時もある。利用者と職員が一体となって食事を楽しいものとなるよう考えている。食べこぼしの多い方には何気ないサポートをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を確保できるよう咀嚼力の低下がみられる方には刻んだり、食べやすくして提供している。また、水分摂取量の少ない方に対しては、こまめな水分の声掛けを行っている。		

グループホームたんぽぽ(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、夜は義歯の方に対しつけ置き消毒をしている。また、自歯が残っている方に対しては一カ月に一回往診にて定期健診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った声掛けや時間誘導をしている。トイレで排泄できるようマッサージなどを行っている。	利用者の細かい排泄パターンを記録してさりげない声かけや介助により、自尊心を傷つけない自立排泄を支援している。利用者のペースに合わせた気配りがうかがわれる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、夕と散歩に行き腸に働きかけている。また、こまめに水分補給を日々心掛けている。朝食後、トイレに行く習慣をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂に入りたい方に対応したり、拒否のある方には無理強いをせず一人ひとりの思いを第一にしくつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	一人ひとりの入浴に対する意識を良く理解したうえで、安心、安全に気をつけて恐怖心に配慮し、入浴介助が行われている。利用者も入浴が待ち遠しく催促が来るようである。シャワー浴もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり起床時・就寝時が違い、その方に合ったペースを重視している。また、昼寝をしたい方には時間を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量については、個人記録に記入し内服内容はいつも目にする薬箱に張り確認している。変化は個人記録に残し、医師に伝えている。服薬の変更があれば申し送りノートを活用し全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事の好きな方に対して、一緒に水やり・草むきや料理の好きな方に対しては野菜切りなどをしてもらっている。		



グループホームたんぽぽ(すみれ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の習慣のある人に対して、マンツーマンで長距離を散歩している。また、外出表をつけ、買い物やドライブに行けるよう取り組んでいる。	外気にふれる機会を多く作っている。また、地域とのふれあいの場を作り、戸外で気持ちよく生きがいがもてるよう、自立支援に取り組んでいる。利用者との対話をよく行い、積極的に外出している。多彩な方法で地域生活環境づくりに努力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は、自分の財布からお金を出す事で社会性の維持に繋げており小遣いを手元に持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・友人の電話は落ち着いて話ができるようコードレス電話で対応している。個人的にはがきを書き、郵便局まで出しに行けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングには季節の花を飾り、夏場は直射日光を遮る工夫をしている。トイレには芳香剤を置いている。居心地が良くつるげるよう家具を配置している。	景色、採光により大変明るく、清潔が行き届いている。お互いの対話が活かせられ、落ち着ける安心の場としての環境がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓・畳スペース・リビングなどいくつかの空間がうまく配置されており、一人で過ごせる場所や集まって談話ができる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや鏡台など生活スタイルに合わせて用意できるよう本人や家族と相談しながら環境作りをしている。写真や仏壇などの大切なものを持ってきて安心して過ごせるよう支援している。	自宅の愛用品、使い慣れたものが置いてあり、プライベートが守られていて自宅の延長として自分らしく過ごしている。利用者が落ち着いて暮らせるような配慮と支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状態に合わせ、椅子の高さや背もたれなども一人ひとりに合うよう工夫している。トイレや洗面所等大きく分かり易い表示をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成19年に理念の見直しを実施していたが地域密着型サービスの理念とまでしていない。理念は月1回の全体ミーティング時、職員全員意識向上チェックシートの読み合わせをし、共有している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動をしているボランティアが、訪問に来てくれる。また、地域の文化祭やお祭りに参加をしたり事業所主催の花火大会では近所の方を招いて交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトに登録し、認知症の理解の為に活動している。市主催の介護予防サポーター養成講座の中で、認知症の理解について話し、地域に向けて情報を発信している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度4回実施。内部評価、外部評価の結果を踏まえての研修会時の資料の意見をもらうなどしている。また外部評価家族アンケートの結果についても話し合い、一層満足頂けるよう努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターが開催する連絡会に出席、情報収集や情報交換を行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような場合、どういったことが身体拘束になるのかを事例検討し、職員の知識の向上と意識を深めている。またスピーチロックを行わないよう日頃から折に触れ伝えている。日中、施設は解錠しており自由に出入りが出来るようになっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修で虐待防止について研修を行っている。普段は朝礼時ニュースの報道などをふまえ、理解を深めている。また、一人ひとりが精神的なストレスをため込まないよう支援している。

グループホームたんぽぽ(ふじ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修で行っており、制度の理解をしてもらっている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また、はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明をしている。料金面についても確認を取りながら進めている。解約の場合、家族に十分な説明と今後の行き先について理解と納得をもらっている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の苦情等について、ユニットで話した事をリーダー会で取り上げ、全体にも周知し、運営に反映させている。事業所に意見ポスト設置。苦情申し立て先がある事を契約時に伝えている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はリーダーが聴き、リーダー会で取り上げ話し合いをしている。また、リーダーは日頃からコミュニケーションが図れるよう努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頻回に現場に顔を出し、業務状況を把握している。また、日頃の努力や具体的な実績で職員処遇への反映をしたり、明るく風通しの良い職場づくりをしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講演後はその内容を全体ミーティングの場で発表してもらっている。また、研修を受けた職員が講師役となり勉強会を行い、事業所で出来ることを実践している。報告書は全員が閲覧できるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな研修に参加して交流を深めている。情報交換は電話や訪問時行っている。県グループホーム協議会に所属し、研修会等に職員が参加できるように配慮している。

グループホームたんぽぽ(ふじ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の主訴、困りごと、要望などの傾聴をし受容、理解するよう努め対応するようにしている。また、施設見学をし雰囲気を感じ取ってもらったり何度か来所してもらうことで、少しでも不安の解消に結びつくように心がけている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴し求めている事を理解し事業所として、どのような対応が出来るか真摯に話をするように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の状況、思いを確認し専門医への受診アドバイスや介護サービスのみでなく医療を含め、他にも利用出来るサービスの説明や対応を行っている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段からそういった場面が多く持てるよう声掛けに工夫をしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝える事で、本人を支える為の協力関係を築いている。また、家族、利用者の思いや状況から外出・外泊など、一緒に過ごせる時間を持てるよう努めている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた美容院や温泉などに行けるように家族に声掛けしたり、利用者の友人が来所時一緒に話をしたりしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時間に一緒に多くの会話が持てるようにしたり、役割や活動を通して、利用者同士の関係が円滑に行くよう努めている。

グループホームたんぽぽ(ふじ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後は面会に行ったり、利用施設の相談員を通して情報のやりとりをしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりの思いや希望を言葉や表情から把握するよう努めている。困難な方には、家族・関係者から情報を得、本人の視点に立ち考えるようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・関係者と馴染みの関係を深め、プライバシーに配慮しながら、必要な情報の把握に努め、本人の全体像を知る取り組みをしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、状態把握に努め持てる力を十分に発揮できるように職員間で話し合う機会をもっている。半年に一度ずつセンター方式のD-1、D-2を活用している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位の考え方、職員の気づきやアイデア、本人・家族の意向をふまえて個々の計画作成を实践したら必ずモニタリングを行い現状に即した介護計画になるようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表で個々の状態を記入し、個人記録にはサービス内容のチェックや状態の変化とその気付きを記入し、情報の共有をしている。これを基に介護計画を見直している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や理容訪問などがあり、希望者が利用している。状況に応じ通院介助・外出支援を行っている。その他医療連携体制を活かし、医療処置を受けながら生活の継続をしている。

グループホームたんぽぽ(ふじ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員が敬老会祝いに訪問してくれる。警察・消防・タクシー会社などの地域資源を活用し、安全・安心に生活できるようにしている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時あらかじめ家族と受診病院について話をしている。希望するかかりつけ医を継続してもらっている。新たに受診の必要のある場合は、家族と相談して決めている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人職員である看護師が、日常の健康管理の相談・助言を行い、医療機関の受診に繋げている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状によって受け入れの難しい場合があるが、受け入れてもらえる病院はある。医療機関の担当者と連絡を取り状態把握に努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と密に連絡を取り合い、家族の受診に同行し医師との連携を図ることもある。事業所としてできることを十分説明し、理解を得ている。点滴など家族の協力のもと、出来る限りの生活の継続を支援している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の不安を取り除き、スムーズな対応が行えるよう、年間計画を立て実践している。また、年一回消防による救急蘇生法、AED使用の訓練を受けている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・防水害マニュアルは作成している。特に火災については、赤電話の設置によりマニュアルを変更し、昼・夜の火災を想定して訓練をしている。また、近所にも協力の声掛けをしている。

グループホームたんぽぽ(ふじ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声掛けや口調・態度に気を付けて対応するように努めている。個人情報については、職員が意識し電話での問い合わせ、来客者に本人のプライバシーに関する事など話さないようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の得意な事を職員全員が把握し、それぞれが活躍できる場面で、活動参加の自己決定ができるよう声掛けの工夫をしている。難聴の方には筆談やカードを見て分かりやすく伝えている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定を決めず、本人の趣味や好む事をする時間を持てるよう支援している。食事・入浴等拒否がある時には、時間を改め声掛けするよう職員間で話し合い、共有している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	殆どの方は自分の好みの服を着用している。中に着衣の順番等分らず、混乱される方はTPOに合った身だしなみができるようさりげなく支援また、化粧される方には、必要時化粧品を購入、剛毛の方に椿油で整容しおしゃれを楽しんでいる。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理・配膳の出来る方には積極的に声掛けし、楽しい食事ができる雰囲気作りをしている。片付けもそれぞれの力に合わせ、老人車を活用し下膳出来るよう工夫している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表の中に項目を作り、摂取量や状態が分かるように工夫している。常時テーブルの上にお茶セットを配置、自分で飲水出来るようにしたり夜間も希望者や必要な方には配茶をしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員歯磨きをしている。自歯の方は、夜磨き残しや異常かないかチェックしている。義歯についても洗い残しがないか確認後、洗浄剤につけている。



グループホームたんぽぽ(ふじ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンやリズムを職員全員が分かっており、失敗の軽減に努めている。リハパン着用者にはパット装着や廃棄場所が自分で行えるようさりげなく声掛けをしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックをし十分摂れるようにしたり繊維質の多いおやつを取り入れたりしている。また、散歩や体操を朝夕行っている。慢性の方には、宅配のヤクルトを取り寄せ提供したり、緩下剤に出来るだけ頼らない工夫をしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間、給湯の為、日中のみの入浴をしているが、その日の状態に合わせてシャワー浴・足浴なども行っている。拒否のある方には、時間をずらしたり職員を代えて対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし生活リズムを整え、夜間の良眠に繋げている。体調や表情を見ながら休息の声掛けをしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量については、個人記録に記入し内服内容はいつも目にする薬箱に張り確認している。変化は個人記録に残し、医師に伝えている。服薬の変更があれば申し送りノートを活用し全員に周知している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から生活歴を聞き、得意分野を知る事で存分に力が発揮できる場面を、毎日の生活に取り入れられるようケアプランに組み込んでいる。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品の買い出し等も声掛けし希望者には同行してもらって外出の機会を増やしている。また、テレビ・新聞や家族からの情報を基に普段行けないような所へ出掛けている。家族との外出支援もケアプランに組み込んでいる。

グループホームたんぽぽ(ふじ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承のもと、お金を所持している方がいる。所持している事で安心したり、普段は使わないが外出の際、所持金で支払いし満足感が得られるよう支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けられる方はほとんどいないが、受ける事が出来る方には、居室で子機を利用し気兼ねなく会話ができるよう支援している。また、年賀状づくりの支援をしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族から届いた花や花壇に咲いている花を生けている。その時々々の季節感のある装飾をリビングに施し、季節を感じられるよう工夫している。また、日差しの強い所は日よけやカーテンを張り快適に過ごせるような工夫をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを分散して設置したり分離型の畳を配置し、心地よい空間や仲の良い人が寄り添いあえる居場所作りをしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた鏡・タンス・椅子・座布団などその方の生活スタイルに合うものを本人や家族と相談しながら決め、心地よく過ごせるような工夫をしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境の中で、老人車や杖などを使い自ら安全・安心して行きたい所へ行く、分かるような表示をするなどし、自立した生活が出来るよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成19年に理念の見直しを実施していたが地域密着型サービスの理念とまでしていない。理念は月1回の全体ミーティング時、職員全員意識向上チェックシートの読み合わせをし、共有している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動をしているボランティアが、訪問に来てくれる。また、地域の文化祭やお祭りに参加をしたり事業所主催の花火大会では近所の方を招いて交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトに登録し、認知症の理解の為に活動している。市主催の介護予防サポーター養成講座の中で、認知症の理解について話し、地域に向けて情報を発信している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度4回実施。内部評価、外部評価の結果を踏まえての研修会時の資料の意見をもらうなどしている。また外部評価家族アンケートの結果についても話し合い、一層満足頂けるよう努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターが開催する連絡会に出席、情報収集や情報交換を行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような場合、どういったことが身体拘束になるのかを事例検討し、職員の知識の向上と意識を深めている。またスピーチロックを行わないよう日頃から折に触れ伝えている。日中、施設は解錠しており自由に出入りが出来るようになっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修で虐待防止について研修を行っている。普段は朝礼時ニュースの報道などをふまえ、理解を深めている。また、一人ひとりが精神的なストレスをため込まないよう支援している。

グループホームたんぽぽ(れんげ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修で行っており、制度の理解をしてもらっている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また、はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明をしている。料金面についても確認を取りながら進めている。解約の場合、家族に十分な説明と今後の行き先について理解と納得をもらっている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の苦情等について、ユニットで話した事をリーダー会で取り上げ、全体にも周知し、運営に反映させている。事業所に意見ポスト設置。苦情申し立て先がある事を契約時に伝えている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はリーダーが聴き、リーダー会で取り上げ話し合いをしている。また、リーダーは日頃からコミュニケーションが図れるよう努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	頻回に現場に顔を出し、業務状況を把握している。また、日頃の努力や具体的な実績で職員処遇への反映をしたり、明るく風通しの良い職場づくりをしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講演後はその内容を全体ミーティングの場で発表してもらっている。また、研修を受けた職員が講師役となり勉強会を行い、事業所で出来ることを実践している。報告書は全員が閲覧できるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな研修に参加して交流を深めている。情報交換は電話や訪問時行っている。県グループホーム協議会に所属し、研修会等に職員が参加できるように配慮している。

グループホームたんぽぽ(れんげ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の主訴、困りごと、要望などの傾聴をし受容、理解するよう努め対応するようにしている。また、施設見学をし雰囲気を感じ取ってもらったり何度か来所してもらうことで、少しでも不安の解消に結びつくように心がけている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴し求めている事を理解し事業所として、どのような対応が出来るか真摯に話をするように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の状況、思いを確認し専門医への受診アドバイスや介護サービスのみでなく医療を含め、他にも利用出来るサービスの説明や対応を行っている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段からそういった場面が多く持てるよう声掛けに工夫をしている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝える事で、本人を支える為の協力関係を築いている。また、家族、利用者の思いや状況から外出・外泊など、一緒に過ごせる時間を持てるよう努めている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた美容院や温泉などに行けるように家族に声掛けしたり、利用者の友人が来所時一緒に話をしたりしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時間に一緒に多くの会話が持てるようにしたり、役割や活動を通して、利用者同士の関係が円滑に行くよう努めている。

グループホームたんぽぽ(れんげ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後は面会に行ったり、利用施設の相談員を通して情報のやりとりをしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりの思いや希望を言葉や表情から把握するよう努めている。困難な方には、家族・関係者から情報を得、本人の視点に立ち考えるようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・関係者と馴染みの関係を深め、プライバシーに配慮しながら、必要な情報の把握に努め、本人の全体像を知る取り組みをしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、状態把握に努め持てる力を十分に発揮できるように職員間で話し合う機会をもっている。半年に一度ずつセンター方式のD-1、D-2を活用している。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位の考え方、職員の気づきやアイデア、本人・家族の意向をふまえて個々の計画作成を实践したら必ずモニタリングを行い現状に即した介護計画になるようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表で個々の状態を記入し、個人記録にはサービス内容のチェックや状態の変化とその気付きを記入し、情報の共有をしている。これを基に介護計画を見直している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や理容訪問などがあり、希望者が利用している。状況に応じ通院介助・外出支援を行っている。その他医療連携体制を活かし、医療処置を受けながら生活の継続をしている。

グループホームたんぽぽ(れんげ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員が敬老会祝いに訪問してくれる。警察・消防・タクシー会社などの地域資源を活用し、安全・安心に生活できるようにしている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時あらかじめ家族と受診病院について話をしている。希望するかかりつけ医を継続してもらっている。新たに受診の必要のある場合は、家族と相談して決めている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人職員である看護師が、日常の健康管理の相談・助言を行い、医療機関の受診に繋げている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状によって受け入れの難しい場合があるが、受け入れてもらえる病院はある。医療機関の担当者と連絡を取り状態把握に努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と密に連絡を取り合い、家族の受診に同行し医師との連携を図ることもある。事業所としてできることを十分説明し、理解を得ている。点滴など家族の協力のもと、出来る限りの生活の継続を支援している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の不安を取り除き、スムーズな対応が行えるよう、年間計画を立て実践している。また、年一回消防による救急蘇生法、AED使用の訓練を受けている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・防水害マニュアルは作成している。特に火災については、赤電話の設置によりマニュアルを変更し、昼・夜の火災を想定して訓練をしている。また、近所にも協力の声掛けをしている。



グループホームたんぽぽ(れんげ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声掛けや口調・態度に気を付けて対応するように努めている。個人情報については、職員が意識し電話での問い合わせ、来客者に本人のプライバシーに関する事など話さないようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時にはトラブルになる事もあり、他利用者に自分の思いをぶつけられる方が増えてきている。日々の日常生活の中で、密接な関係が築けられている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定を決めず、本人の趣味や好む事をする時間を持てるよう支援している。食事・入浴等拒否がある時には、時間を改め声掛けするよう職員間で話し合い、共有している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみとして化粧をする方が増えてきている。自分の好みの色やデザインの服を選び、おしゃれを楽しんでいる。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力を活かしながら準備や食事作りが出来る。お寿司やおやつ作りの一連の作業が出来る方もいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる意欲や咀嚼力低下ぎみの方は、食事介助の仕方や食事形態の工夫をすることで摂取に繋がるよう支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで自ら義歯洗浄が出来ている。出来ない方に対しても職員の介入により清潔保持が出来ている。

グループホームたんぽぽ(れんげ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、失禁回数が多くなっても、安易にパット+リハビリパンツとするのではなく、排泄時間の把握に努め布下着+パットなどリハビリパンツへの移行も段階的に行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や散歩の声掛けを行うと共に、便秘がちな方には腹部や臀部のマッサージを行っている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴槽にゆっくりつかりたい方には、他利用者の兼ね合いの中でつらい気分が入浴できる時に声掛けを行っている。また、温度調節にも気を付けている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の内一回ぐらいは居室で横になってもらうことで、疲れや足の浮腫の軽減に繋がっている。他利用者との関わりによる高揚感がストレスにならないよう休息に努めている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量については、個人記録に記入し内服内容はいつも目にする薬箱に張り確認している。変化は個人記録に残し、医師に伝えている。服薬の変更があれば申し送りノートを活用し全員に周知している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った楽しみ事が見つけられ、気分転換出来ている。他利用者と一緒にする事で張り合いとなっている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の利用者もなじみの利用者と一緒に外出でき生き生きと過ごしている。また、季節を感じられる場所や外食にも出かけ社会との関わりを持っている。

グループホームたんぽぽ(れんげ)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使わなくても自分で所持出来ている事で安心したり、事業所が預かっている事を理解した上で、買い物に出掛けている方もいる。いずれの場合も家族の理解や協力を得ている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙をファイリングしたり、返信日を記入する事で混乱を防いでいる。また、近くのポストへ自ら投函する事で大切な人とのつながりを感じてもらえるよう支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その場にいる利用者の人数や状態により、光・音・温度等の調節を行っている。広い空間は家具等で仕切ったり、花を生ける事で季節感を出している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のその時々楽しみ方で、自ら幾つものスペースを作り上げている。職員はその雰囲気をごわさない対応に努めている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っている鏡台や椅子を置いたり、亡くなった配偶者の写真を飾り、毎朝水をお供えされている方もいる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能の状態に合わせ、低い机での調理作業や高さ調整の出来るハンガーラックを使い洗濯物を干している。